

主日礼拝

2026年8月30日 10時20分～

司式：
奏楽：

「最も優れた道」

『ホセア書』11章1～9節は、神のイスラエルに対する愛情を、親の子に対する深い愛情にたとえています。神はイスラエルが幼子であった時から愛し、エジプトから救い出されました。さらに子に歩くことを教える親のようにイスラエルを支え導き、慈しみをもって養われました。しかしイスラエルはその愛に応えず、神から離れ、偶像に仕え続けました。そのため神が離れられ、イスラエルは敵の支配に落ちますが、神は彼らを完全に見捨てることができません。

「どうしてあなたを明け渡すことができようか」と、神ご自身の深い苦悩が語られます。神は怒りに任せてイスラエルを滅ぼすのではなく、憐れみと愛をもって回復への道を開かれます。この箇所は、イスラエルの不信実にもかかわらず、なお愛し続け、見捨てることのできない神の深い愛を示しています。

『コリントの信徒への手紙一』12章27節～13章13節は、教会が「キリストの体」であり、信徒一人一人がその部分であることが語られます。教会には使徒、預言者、教師など、さまざまな賜物が与えられていますが、すべての人が同じ賜物を持つわけではありません。パウロは賜物を求めつつも、それ以上に「最も優れた道」を示すために愛について語ります。たとえ優れた知識や驚嘆させるような信仰、預言・異言・奉仕の力があっても、愛がなければ無意味です。愛は忍耐強く、情け深く、自慢せず、高ぶらず、礼を失せず、自分の利益だけを求めず、怒らず、悪を企まず、真理を共に喜び、すべてを忍び・信じ・望み・耐えます。預言や知識などの賜物は一時的ですが、愛は決して滅びません。信仰、希望、愛はいつまでも残りますが、その中で最も大いなるものは愛なのです。

《神の招き》

前奏
招詞
賛美歌
『トランペット・ヴォランタリー』J.トラヴァース
申命記10章12～14節
20

《神の言葉》

祈禱
聖書
聖霊の照らしを求める祈り
ホセア書11章1～9節 (旧約1396頁)
コリントの信徒への手紙一12章27～13章13節 (新約 310頁)

子ども説教
交読詩編
賛美歌
説教
祈禱
賛美歌
62編1～13節 (70頁)
483
「最も優れた道」 八木浩史牧師
201

《感謝の応答》

信仰告白
献金
祈禱
主の祈り
使徒信条
献金当番
(週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄
祝福
報告
後奏
28

礼拝当番： (役員：) 献金当番：
音響： 映像：